

## 新ビジョン検討会議等での教育に係る主な意見（抜粋）

### 1 北九州市アドバイザー意見交換会（R5.7.13）

#### （1）宮田 裕章 氏（慶応義塾大学医学部教授）

ポイントの1つがウェルビーイング。今ヘルスケアがウェルビーイングという所も含めて、新しい時代に入ってきているので、ここを強みにしていくとよい。

日本の子ども達の精神的な健康は、先進国においても非常に低い位置にある。身体測定は熱心にやっているが、心の健康もしっかりサポートしていった方が良い。

#### （2）辻野 晃一郎 氏（アレックス㈱代表取締役社長）

衰退原因の分析が大事。教育機関の数が少ない、進学先や就職先が限られているなど色々な理由があると思う。

工業の強みを生かした企業誘致や人材育成、あるいは教育機関、高専などを充実させていき、福岡市と強み弱みをうまく補完し合えるような発展の方向はあると思う。

#### （3）鎌田 實 氏（諏訪中央病院名誉院長）

健康と人間関係と自己決定は、幸せという意味ではとても大事。

#### （4）木下 斉 氏（(一社)エリア・イノベーション・アライアンス代表理事）

教育レベルの刷新が必要。日本の地方に多様なボーディングスクールやインターナショナルスクールが誕生している。軽井沢町は教育機関の増加によって、多数の移住者を集めた。まとまった土地を活用し、今後の日本、アジアに必要な新たな魅力ある教育機関をファミリー向け住宅整備とセットで行うことが有効。

### 2 新ビジョン検討会議

#### （1）第1回（R5.7.27）

キーワードは「安心して長く住みたいまちをどうやってつくっていくか」。学校の外壁落下が話題になったが、実際に老朽化対策チームが夏休みの間に学校をどう整えて点検しているのか、過程を見せていくことが非常に大切。

若者の人口減少が最大の課題。理工系を売りにして、留学生を呼んで面倒を見て、就職につなげていく。国がゆっくり動く中で、いかに早く動けるかが大きな課題。

こどもの幸福度ナンバーワンのまちをめざすこと。

- ・ 相対的貧困状態にある子どもがいかに幸せでいられるか
- ・ 不登校児童生徒が増える中、教育支援室を含めて気軽に出かけられる居場所を
- ・ 外国にルーツのある子どもが安心して教育を受けられる、多様性のある教育環境づくりも急務

子育てを支援していくためには、公的な支援だけでなく北九州市の人情味ある市民性を活かす。今の仕組みは核家族を前提とした支援であり、発想を転換して仕組みづくりを新たにすることが必要がある。

失敗しても何度でも若者にチャレンジさせることが重要ではないか。

#### （2）第2回（R5.8.31）

今の子どもたちが大人になったときに、どのような価値観やライフスタイルを理想として、住む場所を選択するかという視点で、市が提示できることを考える必要がある。

クリエイティブな人は今の教育の延長線では生まれないので、そういう人を育てる

教育機関が必要。

尖った人づくりという点で、こどもの教育、小中高をどうするか。特に中高。首都圏は公立が中高一貫で人格教育までやっているがこちらは遅れている。

多様性を受け入れ、人がつながり、どの世代も自己実現が可能な社会をどう作るか。経済格差・健康格差・教育格差が生まれないようなセーフティネットを考えてほしい。こどもがきちんと教育を受けられるように。

こどもは遊びを通じて成長するので、そういう場を大切に。

教育の多様化支援。不登校が多くなっている。「あまねく色々なことができる人材を育成する」ではなく、この学校はこれができるという特化型の学校があればいい。

経験を積み、多様性を養うため、学生がアジアに飛び出す機会の創出を。

教育や質の高い住宅を供給できるという市のポテンシャルをベースに、人や企業を誘致することが重要。

### (3) 第3回 (R5.10.20)

「英語教育」をどうするか。小中高の英語教育が繋がっていない。先生が足りないのはわかるが、海外経験のある高齢者も含めてボランティアとして活躍いただいてはどうか。

これからは「哲学」「思考力」が重要。文系には数学的な考え方が必要。

英語教育、理工系教育だけでなく、ビジネス教育、金融リテラシーといった経済教育の充実を。

新しい学校をつくるだけでなく、学校全体をつなぐ価値の提案を。こども中心、誰もが主人公、など。北九州市に来ればハイクオリティな教育が受けられる、という価値の提案があるとよい。

ロングスパンの教育という視点。幼稚園から高校までどう接続していくか。起業家精神を育てるためには小学校からあるいは、中高一貫のロングスパンで育てていく必要性を切実に考えており、多様な形でぜひ実現してほしい。これまでの義務教育ではなく、どういう人材を育てるかという時代になっている。

全ての人を受け入れる包摂性のある社会、誰ひとり取り残さない社会という視点を。こどもの幸せ、教育について、包摂的な大きな価値観に基づき、連関性のある施策を。

## 3 ミライ・トーク

### (1) 門司区 (R5.8.19)

門司を離れても、こどもが生まれた時に自分がこういう教育を受けさせてもらえたから、門司で子育てしたいと思えるまちになるとよい。

地域の中に、学ぶ場があるとよい。複合施設の建設で空く門司区役所や生涯学習センターを学ぶ場として再活用できるとよい。

### (2) 小倉北区 (R5.7.30)

19時まで働いても市がフォローしてくれるサービスがあるとよい。親が働きやすい、子育てしやすいまちに。

### (3) 小倉南区 (R5.7.23、R5.7.29)

自然はこどもが育つ環境としてすごく大切。無くさないで欲しい。

(4) 若松区 (R5.7.22、R5.8.20)

農産物のおいしさを伝えるには、給食だけでなく収穫体験が必要。若松のよさを知ってもらったうえで、外に出ていくことが大事。

北九州市立大学では、学生・留学生とひびきの小で、土産のデザインを考えるアントレプレナー教育をやっている。野菜を使う内容で、今後やってみたい。

できれば高校生の段階で、大学と連携した起業教育をできるとよい。

(5) 八幡東区 (R5.8.5)

高齢者が多いまちなので、高齢者と子どもがつながるまちづくりを。高齢者の経験を子どもがいる場で生かせる仕組みが必要。

(6) 八幡西区 (R5.8.26)

折尾を学園都市としてさらに発展させて、新たな学校を誘致し、若者が多く集うまちになるとよい。

(7) 戸畑区 (R5.7.17)

夜宮公園一帯を、質の高い教育が受けられる学園都市にしたい。

#### 4 属性別意見交換会

(1) 働く女性 (R8.8.24)

親が働くために保育園があるのではなく、子どもにとって社会の中で育つ環境がよいからあるという考え方に社会がなっていくといい。

学校の選択肢が広がると、子ども目線で選択ができる。教育のブランディングができると他の地域から人が入ってくると思う。

(2) 子育て世代 (R5.10.10)

私は関東から引っ越してきた。北九州市は、自然や公園も多く子育てしやすいと感じている。

ボール遊びが禁止されている公園もあるが、ボール遊びをしたい子、滑り台で遊びたい子など、いろいろな子どもがいる。皆が安全に公園を楽しむ仕組みがあるとよい。

子どもにいろいろな経験をさせたいという気持ちから、習い事をさせている人も多くいる。例えば理系教育など、北九州市ならではの幼児教育に力を入れていけば、子育て世代にとって、もっと魅力的なまちになると思う。